



国内初 感染の疑い

新型インフル 横浜の男子高校生 カナダに修学旅行 発症もすでに快方

厚生労働省は一日未明、国内初の新型インフルエンザ感染の疑いがある患者を確認したと発表した。同省などによると、患者は横浜市在住の高校二年の男子生徒(17)で、四月十日から二十五日まで修学旅行でカナダのブ

リティッシュコロンビア州に同級生ら約百二十人と滞在した。出入国は成田空港を使った。帰国後、発熱、せきなどの症状が出たため、三十日に医師の診察を受け、現在入院中。発熱が最も高いときで三九度あ

った。同級生らには発熱などの症状は出ていないという。米国から成田空港に帰国した女性(25)は新型に感染していなかったことが確認された。一日未明、記者会見した舛添要一厚労相は生徒

について「横浜市で実施した遺伝子を調べるPCR検査で、いったんはク

ロだったが、その後、解析不能だったとの報告を受けた。再度調べたい」と述べた。

生徒の検体は一日、国立感染症研究所に運び精密検査を実施。早ければ一両日中にも結果が判明する。確定した場合、初の新型インフルエンザ患者となる。

厚労省によると、生徒は簡易検査で「A型陽性」と出た。一日未明には熱は三七度台に下がり、快

方に向かっているという。また同省は、生徒の国内での行動や接触者、同行者の状況について調査。横浜市も一日、同級生や教職員から体調について事情を聴く。



国内初の新型インフルエンザ感染の疑いがある患者が確認され、記者会見に臨む舛添厚労相(1日午前1時35分、厚労省)

新型インフルエンザめぐり経過

- 2009年 4月23日 ▶ 米疾病対策センター(CDC)が米国内の7人が豚インフルエンザに感染したと発表
- 24日 ▶ メキシコ政府が感染の疑いのある死者が68人、患者1004人と公表。CDCが米国内の感染例は人から人への感染と断定
- 25日 ▶ 世界保健機関(WHO)が「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」と認定
- 26日 ▶ ニュージーランド政府が、メキシコから帰国の高校生10人に感染の疑いと公表。カナダでも感染を確認するなど拡大
- 27日 ▶ WHOが警戒水準を「4」に引き上げ
- 28日 ▶ 日本政府は新型インフルエンザの発生を宣言。麻生太郎首相を本部長とする対策本部を設置
- 29日 ▶ CDCが米国内で初めて死者が出たと発表。WHOが警戒水準を「5」に引き上げ
- 30日 ▶ 厚生労働省が感染が疑われる患者を確認

(日付は現地時間)